

みんなのスペース

◆あて先・問い合わせ
〒028-1392（住所不要）山田町役場総務課情報係（内線417）へどうぞ。

バンタロウ②

《前号から続き》

なんぼうでも年の上の人が艦の方へ座り、年下より順番に櫓や櫓の漕ぎ方の要領を学ぶが、これがなかなかうまくいかない。櫓の漕ぎ方については慣れない人ほど櫓を支える「ハヨウ」を「たるませる」。よって櫓全体が水面に浮くので力点が定まらず「イレハラ」が、立つよう「外」る。その都度艦の方の指導者が、カレイを突いたといつて「イレハラ」を「立」に入れてくれる。よって「カレイ突き」の名人が生まれるが、このようにして、

皆で協力して、櫓、櫓の取り扱いの名人になる訳だが、今は櫓、櫓を要としない時代。でも思うに、海に生まれ、海によつて生かされている今、中・高の生徒さんで「カレイ突き」をしないで上手に取り扱う人がどの位いるだろうかと思っているが、俺が小さい時分はこの様にして協力の精神が高く、櫓、櫓を漕ぐのも教えたり教られたりして覚えたもんだった。古き良き時代を懐しむ。

山崎 卓三（大浦・？）

三人の兄を想う

なんとなく眠れぬ、夜のしじま、ラジオで聞く「国境の町」の歌、「故郷はなれて、はるばる千里：男泣きする宵もある」。歌を聞きながら、亡き兄を想い出して涙でした。兄は、台湾・高雄で撃沈され戦死。戦後の日本、本繁栄を見る、知ることなく、異国の海で眠りつづけて69年。あの戦争は何のためだったのだろうか、と回想しています。二人の兄は、五十数年前北の海で遭難。「海の祈り」の歌に「あいつをのんだ嵐がにくい、男の夢をかばうな海よ」を、聞きながら涙…。三人の兄は異なる北の海、異国

の海で…。

仮設住宅で暮らしながら、遠い日を思い浮かべて枕べが涙でぬれて：朝方になっていました。合掌。

菊地 サカエ（織笠・78）

防災の一ロメ

「ざあ、カモメのおが上がりだあなあ。」

七月のある夕方の事、デイサービスに帰りに車内の窓から見た光景に発した言葉でした。昔から山田では、このようなことがあると時化が来るという意味に捉えてきました。今はラジオやテレビで簡単に天候を知ることが出来るけど、昔の方々は鳥類や動物の光景などで判断して予測したものと考えられます。八月七日から九日にかけては、大雨で秋田県、岩手県内陸で観測史上初の記録となった豪雨に見舞われ、被害もあつたようです。このような事があの時のカモメの丘上がりだったのかなあと思います。

山田にはこのようなことわざがまだまだあると思います。これを町民皆さんで語り合いながら次世代にも話したりして、少しでも防災の役に立てたら良いなあと思います。

佐々木 安男（大沢・76）

旬の物（初物）

旬の物（初物）

この地方には、昔から、その年の初物を食べると、75日生き増しすると、年輩の人達は、言っていたものだ。そんな事から、春先になれば、ワラビ、ゼンマイ、タラノメなど、色々な山菜を食べる風習があります。

我が日本国は、四季の移り変わりがはつきりしていて、春は山菜が盛んで、夏はブドウや果物、そして秋には、代表的なのが、何と言つても山では松茸や栗、海では、サンマに秋鮭でしょう。

サンマ漁は、秋鮭漁より少し早く、夏の終り北海道沖に始まり、三陸沖が全国的に有名な漁場で三陸の港を基地として、宮古湾、大船渡湾の魚市場に、水揚げされた新鮮なサンマは、水産加工業者の手によつて、直ちに箱詰めされ各方面に発送され、岩手県内はもとより、全国の家庭の食卓に届くでしょう。

これからも皆さまが、旬のサンマ、秋鮭を一杯食べて、元氣になり、震災に負けず、昔からの習わしの旬の物（初物）を食べて75日生き増し健康と浜の豊漁で、復旧復興を急ぎたいものです。

西館 隆（船越・80）

やまだ文芸広場

此れの世に幸せうすき我が猫はいづこの果てをさまよいしかや

昆 ユリ（織笠・80）

御仏の心音しそ秋の寺

今という今なる時はなかりけり
まの時くればいの時は去る

艶やかに衣替えする紅葉に
人はなぜか心惹かれる

内館 洋一（飯岡・？）

すだればし大根の味深くなる

年のせい

旅のエリアをせまくする

芳賀 誠一（豊間根・72）

彼岸花

綺麗に咲いて 手を合す

佐藤 兼男（荒川・86）

イイ秋

イイ笑顔

イイ仲間

イイ出逢い。

佐藤 啓子（船越・？）

